

(別記)

瀬戸市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

瀬戸市では、戦略作物であるWCS用稲の栽培が定着しつつある。地域振興作物は、水田を有効活用して、露地野菜を中心に生産されている。しかし、農家の高齢化や後継者不足により、田畑の耕作放棄地化が年々進行している。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

農家の高齢化や後継者不足により、年々減少傾向にあるものの、農業塾の卒業生や若手の農業者を活用し、現状維持に努める。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

産地交付金を活用し、栽培暦に準じた適正な施肥管理を行うなど生産性と品質の向上を図りつつ、畜産農家と連携し、計画生産を行う。

イ 米粉用米

産地交付金を活用し、生産性と品質の向上を図り、当面の間は現状の生産量を維持しつつ、拡大の方向性を探る。

ウ WCS用稲

産地交付金を活用し、栽培暦に準じた適正な施肥管理を行うなど生産性と品質の向上を図りつつ、畜産農家と連携し、計画生産を行う。

(3) 大豆

大豆については、産地交付金を活用し、前年度に引き続き付加価値の高い減農薬、減化学肥料栽培に取り組み、市内の豆腐店と連携して豆腐への加工を行うなど地産地消を推進する。

(4) 野菜

産地交付金を活用し、地域特産物として力を入れている「自然薯」「山ごぼう」を振興品目として面積を拡大するとともに、地産地消推進の観点から学校給食に納入可能で露地野菜としてリスクが少ない「タマネギ」「ハクサイ」などの品目にも取り組む。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	101.08	110.0	110.0
飼料用米	0.35	0.35	0.50
米粉用米	0	0.13	0.20
新市場開拓用米			
WCS用稲	3.83	1.26	1.50
加工用米			
備蓄米			
麦			
大豆	0.35	0.18	0.30
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物	6.30	7.10	7.10
野菜	6.30	7.10	7.10
・			
・			
・			

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	飼料用米	飼料用米の生産性・品質の向上等	栽培面積	(29年度) 0.35ha	(32年度) 0.50ha
2	米粉用米	米粉用米の生産性・品質の向上等	栽培面積	(29年度) 0.0ha	(32年度) 0.20ha
3	WCS用稲	WCS用稲の生産性・品質の向上等	単収の向上	(29年度) 1,650kg/10a	(32年度) 2,000kg/10a
4	大豆	大豆の単収向上の取組	単収の向上	(29年度) 100kg/10a	(32年度) 120kg/10a
5	高収益作物(野菜)	高収益作物の支援	栽培面積	(29年度) 6.30ha	(32年度) 7.10ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり